

手作り祭事・イベントを盛り上げよう！

～地域の思いを集め、多くの人に届けるには～

【趣旨】

イベント・祭事の知名度アップには、広告宣伝に資金を投ずるか、手作りの志への共感の輪が拡がり浸透するかのいずれかである。地域の思いを集め、その体力に応じた展開をするには、後者を選ぶことになる。一方で、一定以上の歳月を要するこの道程は、主催者内の絆のゆらぎ・必要経費等の仕組みづくりで難渋することがある。

東北を拠点に活躍するゲストを招き、関わった草の根プロジェクトの成功要因を伺うとともに、千里浜町壮年団が取り組む手作り祭事「千里浜侵食防止祈願祭」の発展・願望を題材に、実践的討議を実施。ゲストが持つ成功秘訣の応用を試みる。

【ゲスト】

吉川由美

(有)ダハ プランニングワーク 代表取締役

プロデューサー、演出家、クリエイティブ・ディレクターとして、さまざまなコミュニティで市民を巻き込みながら、文化芸術、観光、教育とをつなげるプログラム・オフィサーとして活動。2010年より、南三陸町の新たな魅力を再発見するアートプロジェクトを企画し、東日本大震災で甚大な被害を受けた町で、アートを通し復興に向けたプロジェクトを展開している。また2007年から仙台・宮城観光キャンペーンに関わるクリエイティブ・ディレクションを担当。八戸ポータルミュージアム はっち 文化創造ディレクター。宮城大学非常勤講師。

【コーディネーター】

濱 博一 石川地域づくり協会コーディネーター

能登半島をはじめとして「地域活性化」をライフワークとする。各種起業・産業振興政策にも従事する傍ら、各地の活動現場を支援。

協力団体 ● 千里浜壮年団

会場 ● 羽咋市文化会館第一研修室

参加者 ● 30名

1. 分科会要約

吉川由美 ダハプランニングワーク
代表取締役 講演要旨

吉川さんは仙台を中心に活動しています。アートを基にしたまちづくり活動を行っています。今回の南三陸町は仙台から北に通常なら1時間30分ですが、震災後は2時間の処に有る漁業を中心とした町です。吉川さんは偶然に3.11前に宮城県の南三陸町の掘り起しを町役場と共に計画しました。町の人々の活動の琴線に触れる活動とはと考えました。町役場の女性職員が普段発言はしないが何か考えを持っていそうな若い女性に声をかけ、15人程の参加者を集めました。楽しいまちづくりを考えようと活動を開始しました。2010年7月のこと、目についたのがキリコ（紙細工）といわれる半紙を二つに合わせて、正月に神棚に飾る縁起物で神社の宮司さんが作る物です。皆が町内で聞いた話を切り紙にして商店街に飾ろうという事になりました。酒屋さん・料亭・お菓子屋さん等の話題性に富んだ切り紙が650枚もできました。



歩くと楽しいまちづくりが広がり、各家庭でも貴重な品を展示してくれるようにもなりました。ここからはドンドン話が進むようになり宮巡りやパワースポットツアー等もできました。

活動の中心となったのがやはり女性で町内外にお嫁に来られた中国・台湾等からのお嫁さんが日本とは違う赤い切り紙を作ったり、皆でアジアンデーと銘打ってイベントをするようになりました。彩プロジェクト（ワークショップ）がスタートし、スイーツ作りも開始し、彩スイーツもできました。参加している女性が綺麗になっていくのが嬉しかったとのことです。

そこに起きたのが、3.11。1万8千人の町の900人余りの方が死亡・行方不明となりました。佐藤町長が奇跡的に助かり、陣頭指揮を執っているのが伝わりますが、吉川さんは南三陸町が復興して、町に思い出を残したいとアートNPOの仲間達等と南三陸の海に思いを届けようと、色々な援助活動を通じて奮闘されています。津波で何もかも無くなった町ですが、吉川さんと女性の方々の活動記録が残っていて、一冊の本となって出版されたのは今後の活動に光を与えたことと思います。



千里浜壮年団による「千里浜浸食防止祈願祭について」の発表

千里浜壮年団は千里浜地区の26歳～55歳の81名の団員による団体で地区の行事・団独自の行事やボランティアを行っています。

毎年9月の第2土曜と日曜に地区の秋季祭礼の一環として「千里浜浸食防止祈願祭」を行っています。祈願祭は千里浜が毎年50mから100m程浸食されるのを防ぐ諸行事の一環として行われています。祈願祭行事は午後8時の祈願祭で始まり神輿に山車の練り歩き（千里浜で行うので全国唯一の砂浜での練り歩き）・獅子舞や打ち上げ花火等を行っています。地区内より行事自体に対する物言いいが有り悩みとして1、費用の調達(80万位)2、現在の行事自体を継続していくかどうか・一方で知名度の向上をどう図るかに有ります。1の費用の調達では団員による町民・企業からの寄付金集めが主なものですが、現状は飽和状態に有り、増加は望める状況下にか有りません。2の知名度の向上ですが、地区内の意見として続けること自体が良いのかどうか、一方では知名度の向上を図ることを目標にしたいたいの思いを持つと発表が有りました。



濱コーディネーター

南三陸町で普通の女性の活動が地域の人に受け入れられ、その活動が段々共感を得て広がっていったのはコーディネーターとしての吉川さんの力が有ったからです。キリコ・T-シャツ等のクリエイティブな活動はコーディネーターの役割の重要性が求められる。集金について、幸いという字は土の下に☓が有るということ。

活動するうえでフラットなコミュニケーションを図り、黙されている思いの発掘や既成概念の無い発想が必要。



2. 開催で得たもの(新しい発見)

人と人との絆が大切であるという事。心配停止という例えで、心配りが大切であるという事を聞きました。それは個人の価値の発見とその方のかげがえの無い物語を尊重することであり、それがひいては地域との絆を強めていくことになり、新しい価値観を確信することになる。

3. 分科会まとめ

共感者の発見、感動、心の琴線に触れる話、きめ細かに拾っていく活動が大切である。フラットなコミュニケーション

を図り、人と人との繋がりを大切に、人の繋がりをエネルギーにしていく活動が創造という輪を広げていくことになる。

4. 今後に向けた展開

人と人との繋がりを広めていくうえで、多くの黙されている思いの発掘をどう図るか、学習を通して→体験→経験のサイクルを使ってどう応用していくかを考える。

5. 参加者の声

- ・南三陸は海に行けばお金が有るという風土、本当に明るい町です。
- ・愛の反対は無関心と聞きました。能登が世界農業遺産に認定されたことについて職員の中で知らない人が多い。県の視点がぶれていると思う、無関心層の掘りお越しが必要と思うが。
- ・能登の世界農業遺産認定は農業生産システムが認定された。職員の認知度アップは庁内の問題。要は軸がぶれないことが重要で南三陸町は軸がぶれていない。